

18歳でチャイコフスキー国際ピアノコンクール 第1位に輝き、リヒテルの代役として ザルツブルク音楽祭に登場

アンドレイ・ガヴリーロフ Andrei Gavrilov, Piano



1955年モスクワ生まれ。父は著名な画家、母はゲンリッヒ・ネイガウス門下のピアニストで、3歳から母にピアノの手ほどきを受ける。モスクワ中央音楽学校でタチアナ・ケストナーに学び、その後モスクワ音楽院でレフ・ナウモフに師事。

1974年、18歳でチャイコフスキー国際コンクール優勝、同年ザルツブルク音楽祭でスヴァトスラフ・リヒテルの代役を務めて一躍脚光を浴び、煌びやかな国際的な演奏活動を開始する。

1980年までに世界の主要文化都市にて演奏していたが、その後1984年にバービカンとロイヤル・フェスティバルホールでリサイタルを行うまで、政治的理由で国外での演奏活動からは遠ざかっていた。この期間ミハイル・ゴルバチョフに請願し、亡命することなく国外に滞在する許可を与えられた第一号のソヴィエトの芸術家になった。

1985年カーネギーホールでのリサイタルデビュー後、ニューヨーク・タイムズ紙に著名な批評家ドナルド・ヘナハンより「大器」と称された。

ニューヨーク、ロサンゼルス、デトロイト、クリーヴランド、シカゴ、フィラデルフィア、モンテリオール、トロント、ロンドン、ウィーン、パリ、ベルリン、ミュンヘン、アムステルダム、東京、モスクワ、サンクトペテルブルクなど多くの主要オーケストラ、ハイティンク、アバド、ムーティ、小澤、スヴェトラノフ、テンシュテット、ラトル、ネヴィル・マリナー他、著名な指揮者と共演。

1976年から1990年、EMI専属アーティストとして数多くの録音を行った。これらの録音はグラモフォン大賞(1979)、ドイツ・シャルプラッテン賞(1981)、シャルル・クロー・アカデミーのディスク大賞(1985・1986)、国際レコード批評家賞(IRCA、1985)、「世界最高のピアニスト」と評価されたシエナのキジアーナ国際音楽アカデミー賞

(1989)などを受賞。1990年10月からはドイツ・グラモフォンよりショパン、プロコフィエフ、シューベルト、バッハ、グリーグなどを録音、国際的に高い評価を受けた。

1994年から2000年初頭まではほとんど演奏活動から離れ、哲学や宗教の研究、そして新しい音楽のアプローチ法を模索していた。2000年から徐々にコンサートを再開し2001年、モスクワ音楽院大ホールにて一夜で4つのピアノ協奏曲を演奏し、完全なる復活を遂げた。以来一層精力的に活動している。

2011年には自叙伝を出版。2013年の第2版からは、書籍に新たに録音されたショパンのノクターン9曲が収められ、ロシア語、後にドイツ語、英語、フランス語、ウクライナ語で出版された。

2013年4月、長年の夢であったチャイコフスキー第1番・ラフマニノフ第3番など、大編成のオーケストラを要するロマン派以降のピアノ協奏曲の弾き振り(ピアノを弾きながら自ら指揮する)を実現した。以来ヨーロッパを中心に、2017年にはアジアで初めて韓国・ソウルでも公演。オーケストラとソリスト一人一人の繊細で高度な技巧と音楽性が融合され、一体となって奏でられる演奏は大好評を博している。

芸術とは、音楽とは、演奏とは。あらゆるジャンルの多くの先代の著名人から受け継ぎ、演奏活動を休止してまでも探求し続け、辿りついたもの—音楽という言葉将我々の語る言語に完全に翻訳すること。それらを多くの人に伝えたいとの強い想いから、2018年より楽曲の解釈についてのレクチャービデオを配信。ロシア語・英語・フランス語・ドイツ語・スペイン語などの翻訳も公開されている。日本語訳も公開される予定。またバッハ、ショパン、リスト、シューマン、ムソルグスキーなどの録音・レクチャーも予定されている。

宗次ホールのご情報はこちら！
フォローお待ちしております

♪ 随時
更新中



https://www.instagram.com/munetsugu_hall/



他にも各SNSにて情報発信中！

交通アクセス
地下鉄栄駅(12) 番出口より東へ徒歩4分



くらしの中にクラシック

宗次ホール
Munetsugu Hall

名古屋市中区栄4-5-14 〒460-0008
TEL:052(265)1715 FAX:052(265)1716
E-mail info@munetsuguhall.com
URL www.munetsuguhall.com

宗次ホールチケットセンター
営業時間:10:00~16:00
※13:45以降に開演の公演がある場合は18:00まで営業